

第3章 施策の方向性

1 目指す姿と取組の基本方向

【目指す姿】

あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会

文化芸術は、県民が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していく上で欠かせないものであり、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他社会のあらゆる分野と関わり、地域社会の発展と県民の活力を高めていく貴重な財産です。

そこで、障害の有無や年齢、性別等に関わらずあらゆる人々が文化芸術を享受できるよう、様々な機会の提供、活動への支援、人材の育成などの環境づくりを行うとともに、地域の伝統文化が次世代へ継承され、地域活性化につながる取組を行います。特に、次代を担う子どもや若者が文化芸術に触れる機会の充実を図ります。

また、本県には、固有の歴史・文化・豊かな自然、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会により得られたレガシー等があることから、これら多様な「ちば文化」の強みを生かしたブランド化を進め、本県の文化的魅力の認知度向上に取り組むとともに、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等様々な分野との連携を推進します。

さらに、文化芸術の創造や発信の手段の多様化や、新型コロナウイルス感染症の拡大による新たな生活様式に対応するため、ICTの活用やデジタル化にも取り組みます。

なお、本県では新たな千葉県総合計画のもと、SDGsに通じる様々な施策を着実に推進することとしていることから、SDGsの考え方も踏まえ、これらの取組を通じて、心豊かに暮らすことができる活力ある地域社会をつくることを目指します。



本県の県民生活を支える海

(上段左から) 谷津干潟、京葉臨海コンビナートの夜景、釣ヶ崎海岸の景観
(中段左から) 東京湾アクアラインの夜景、九十九里浜の景観、波の伊八
(下段左から) 南房総白浜海女まつり、大原はだか祭り

2 基本指標等

本計画全体の達成度を計るための基本指標及び目標を次のとおりとします。

指標	現状（令和2年度）	目標（令和6年度）
この1年間に、文化芸術を鑑賞した県民の割合 （オンラインでの鑑賞を含む）	（参考）69.5% ⁸	75.0%
この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をした ことがある県民の割合 （オンラインでの活動を含む） （「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、 祭りや体験活動、趣味を同じくするグループで の活動への参加を含む）	—	50.0%

3 5つの視点

目指す姿の実現に向けて、千葉県文化芸術の振興に関する条例の理念を踏まえ、文化芸術に関する施策に取り組む際に重視すべき視点を次の5つとします。

アイデンティティー	千葉県民としての意識や、地域・郷土への愛着を持つこと。
多様性	共生社会として、年齢、障害の有無等に関わらず、文化芸術に触れること。
継 承	伝統芸能・文化財等を保存、継承していくこと。
創 造	新たな文化芸術を創造していくこと。
展 開	文化芸術そのものだけでなく、多様な分野と連携、発展していくこと。

⁸ 第60回（令和2年度）県政に関する世論調査において、「文化芸術に触れたか（鑑賞・活動をしたか）」の問いに対し、「触れなかった」及び無回答を差し引いた県民の割合。この割合には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、オンラインでの音楽や映画等の視聴機会が増加した等の社会状況の変化に鑑み、オンラインで文化芸術を鑑賞・表現した場合を含めています。

4 取り組むべき課題と施策の方向性

前計画での取組や文化芸術を取り巻く諸情勢の変化や、重視する5つの視点を踏まえ、さらに総合的かつ効果的な文化芸術の推進を図るため、現状及び本計画で取り組むべき課題及び、施策の方向性を整理すると、次のようになります。

